

# 新しい「現実」をみせる

〔特集1〕 犬島対談 坂手洋二×矢内原美邦

〔特集2〕 専門性を追求するオーストラリア教育制度

プレ体験留学体験記







Photo all by ; Daisuke Aochi

特集 1

# 犬島対談



劇作家・演出家

舞踊家・振付家・劇作家・演出家

## 坂手洋二 × 矢内原美邦

公益財団法人 福武教育文化振興財団創立25周年記念事業「犬島 海の劇場」の一環として、9月22日、23日に犬島の南部・西ノ谷の湾岸を会場に新作野外劇「内海のクジラ」を上演しました。初演が終わった後、作・演出の坂手洋二氏と振付・矢内原美邦氏に犬島で対談をしていただきました。

### 一犬島について

**矢内原** 2010年に精錬所に訪れたことがあるのですが、今回はカフェができたりしていましたね。道を歩いていたら島民の方にやさしく声をかけていただいて、楽しく過ごしました。

**坂手** 美邦さんは世界のいろいろな場所で作品づくりをしていると思いますが、これまで「島」で何かをされたことはありますか？

**矢内原** 初めてです。海はやっぱりすごかったです。

**坂手** 海がすごいです？

**矢内原** 海をバックに芝居をするという……海の劇場がすごかったです。

**坂手** 僕らもいろいろな劇場で公演をしてきたけど、島で公演をすることはなかなか考えられなかった。やりたいと思ってできることではないよね。犬島がアートの開放されてきた場所だから、できたと思う。

**矢内原** 海があるだけでいろんなことが不便になるけれど、それで育つ文化があるのだと考えさせられました。

**坂手** 牛窓から犬島に寄って旭川の京橋に行く船便があったというのを聞いて、「町」の中心にある川の文化と犬島が繋がっていたのかと思うと、面白いなと。

**矢内原** その当時の場面がセリフとなって芝居に入っていましたね。

### 一野外劇について

**矢内原** 犬島に入ってから稽古で役者の集中力がすごく高まりましたね。

**坂手** 海が劇場になりえるのかと不安な面もあったけど、実際に海を目の前にしたときに役者の身体じたいが変容していったのは素晴らしかった。演劇はフィクションであると思われているけど、僕はフィクションよりもっと

「現実」だと思っている。新しい現実をみせるのが舞台芸術だと考えると、太陽光のもと、海で「非現実」が導く新しい「現実」をみせる、観客と俳優が新たな関係を見出すという今回の演劇は、これまでにない舞台芸術の入り口がみえたような気がする。

**矢内原** 照明がない昼間の公演は、観客と役者と演出家の勝負になるので、興味はありますが怖いですね。

**坂手** 劇場では照明効果は大事です。照明によってどうフォーカスするかっていうディレクションが働いて、観客は光があたらないところは観なくていい。野外はそうした作り手と観客のバランスがとりにくいのですが、「内海のクジラ」は無意識に聞こえてくる波の音によって、助かりましたね。波の音は「自然」なのに「非現実」を喚起するんです。

**矢内原** 自然の力にたくさん助けられました。クジラが浜辺に打ち上げられているシーンになるとトンビが低空飛行してきたのには驚きました！

### 一犬島の可能性は？

**矢内原** 島民の方が演劇を観た帰り道、作品について感想を話し合っている姿に感動しましたね。犬島には現代アートが既にあるので、これからはモノを残していくのではなくて気持ち(心)を残していくことが大切だと思っただし、演劇にはそれができると思った。

**坂手** イタリアのスポレートに近い山の中には、ニューヨークを拠点とするラ・ママ劇場が設けた研修施設と野外劇場があって、演劇フェスティバルの時期には世界各地から人が訪れている。犬島の場合は、既に研修施設と演劇が結びついているし、瀬戸内国際芸術祭で維新派が公演したことによって、各地から演劇を観に来るという習慣ができつつあるので、継続することによって日本には珍しい「地域に定着した芸術のお祭り」という前例を作れる場所となると思う。

**矢内原** 犬島で演劇フェスティバルができるといいですね。会場を転々と、歩いて回る…。

**坂手** そう、歩いて回れるのは魅力！犬島は、このコンパクトさの中で何か一つのまとまったものを体感したという手応えを得られる。犬島の可能性としては、そこは大きい。他の場所ではなかなか得られない。

### 一地域にこだわる

**矢内原** 坂手さんは、岡山出身ですよね。地元で演劇をやりたいという気持ちは強かったですか？

**坂手** 芝居をすることと故郷を結びつけて考えたことはずっとなかった。最近は岡山で何ができるのかを考えているが、それは東京から地元に戻るということではないと思う。

**矢内原** そうですね。地元に戻るならともに演劇をつくってきた仲間と一緒に戻れるようなシステムがあれば、地元でできる可能性もあるかもしれません。それには、ヨーロッパなどで行われている国や県のバックアップは絶対に必要になってくるように思います。

**坂手** 今の日本は「劇場法」によって公共の劇場が中心に置かれる方向になっているけど、アーティスト側からすると民間のプライベートシアターのほうが馴染むと思う。市民の誰かが始めたものでもそこに公共性を見出せば惜しまず官民がサポートする、という形の方がいい。ベルリン最大の国立劇場フォルクスビューネを牽引していたリエンタールが独立してHAUという民間劇場を造り成功したのは、その実例。牛窓で佐竹徳さんを慕った絵描きたちが「赤屋根」に集ったのもそうだけれど、アーティストの自発性・自立性は保証されるべきだし、国家によってあてがわれ配置されるのではなく、自ら望んで自分の居場所を手に入れる人がいれば、そこに自然と人が集まってくるんです。

**矢内原** 自ら進んで自分の居場所を手に入れようとするのはとても重要ですよ、常にその気持ちを持っていられたら、そうすることができれば、いいなと思います。



坂手洋二 ——— Yoji Sakate

劇作家・演出家。燐光群主宰。岡山県生まれ。岡山芳泉高等学校、慶應義塾大学国文科卒。ほぼ全作品の作・演出を手がけ、燐光群の作品を中心に、岸田國土戯曲賞、鶴屋南北戯曲賞、読売文学賞、紀伊國屋演劇賞、朝日舞台芸術賞、読売演劇大賞最優秀演出家賞を受賞。2005年岡山県文化特別顕賞。戯曲は海外で10以上の言語に翻訳され、出版・上演されている。日本劇作家協会会長。日本演出者協会理事。国際演劇協会日本支部理事。『坂手洋二 II』(沖縄三部作 ハヤカワ演劇文庫)等、多くの戯曲集と評論集が出版されている。<まなびピア岡山2007>開閉会式の総合プロデューサーを担当。昨年は民藝に大滝秀治の遺作となった『帰還』を、青年劇場に『普天間』を書き下ろしている。



矢内原美邦 ——— Mikuni Yanaihara

舞踊家・振付家・劇作家・演出家。ニプロール主宰。大学で舞踊学を専攻、在学中にNHK賞、特別賞など数々の賞を受賞。日常の身ぶりをモチーフに現代の空虚さや危うさをドライに提示するその独特の振付けは国内外での評価も高く、身体と真正面から向き合っている数少ない振付家のひとりと言える。ミクニ ヤナイハラプロジェクトでは演劇にも挑戦し、ジャンルを問わないその活動はニプロールのみならず、多数のアーティストとコラボレーションするなど世界中を舞台に活躍中。坂手洋二とは、燐光群『現代能楽集 ハイブセン』『現代能楽集 チューホフ』『アイ・アム・マイ・オウン・ワイフ』、東京演劇アンサンブル『荷』で共同作業を行っている。2001年ランコントレ・コレオグラフィック・アンテルナショナル・ドゥ・セーヌ・サン・ドニ ナショナル協議員賞受賞、2007年第1回日本ダンスフォーラム賞優秀賞受賞、2012年第56回岸田國土戯曲賞受賞。



## グローバルな人材を育成するための事業

### 専門性を追求するオーストラリア教育制度

#### プレ体験留学体験記

福武教育文化振興財団では、国際的に活躍する人材育成を重要な施策の一つに上げています。今年度も高校生22名にオーストラリアの公立高等職業教育機関TAFEの職業教育・語学学習に触れてもらうプレ体験留学を8月に実施しました。

今号では、参加した高校生の体験記の一部をご紹介します。

#### TAFE (Technical and Further Education)

オーストラリア(国・州)が運営する、スキル習得のための公立キャリアカレッジ。

職業に直結した技術や知識を高める教育機関。オーストラリア全体で57校あり、160万人の学生が在籍しています。州によっては高校生の約半数がTAFEに進学します。TAFEが支持される理由は、講師の質や充実した設備の他、大学の2年時に編入するルートがあること、学費を押さえることができること、そして実践的なスキルを習得できることです。



#### 国際人として自分を見つめる

明誠学院高等学校 3年 武上由法

TAFEでの教育は日本の教育と比べてはるかに高い水準でした。先生は、その職業でたくさんのキャリアを積み、社会で今ななが求められているのかを考えて教えてくださるので、社会に出た時に即戦力として力を発揮できるそうです。そして、本物の機械を使って授業を行ったり、企業との連携がとて強かったり、施設や設備も充実していたり、学生へのサポート面でも充実しているので、自分の力に磨きをかけ、安心して授業を受けることができます。また、高校に通いながら授業を受けることができ、高校卒業と同時に資格を手に入れることも可能だということです。

最近、日本の学生は海外に行かない、いわゆる内面的思考となっていますが、このプレ留学を通して、日本の学生はもっと海外に行くべきだと思います。日本の英語教育だけではこのグローバル化の激しい時代に対応できないと思います。海外に目を向けることにより、国際人として自分を見つめ、考え、向上することによって世界水準の語学力を初めて身につけることができると思います。

#### 素晴らしい環境

岡山操山高等学校 3年 吉實莉子

TAFEについて、想像以上の設備の充実度、規模の大きさにとても驚きました。その広い敷地の中にある芝生や池はすべて園芸コースの授業で使うと聞いて、改めて実践的な授業が行われていると感じました。校舎には、ホスピタリティコースの生徒が運営しているレストランもあり、昼食をいただきました。美味しいだけでなく、見た目もきれいな料理を見て、TAFEの生徒のレベルの高さを感じました。また、レストランには園芸コースの生徒がつくった造花が飾られていました。ホスピタリティコースの生徒の料理を園芸コースの生徒が食べることもあるそうです。私はこういった、同じコースの仲間からだけでなく、違うコースの生徒からも刺激を受けられる環境をとて魅力に感じました。そして、TAFEを見学して私が一番素敵だと思ったのは、様々な国の生徒が交わり、それぞれの夢に向かってとても楽しそうに努力していることです。私もこんな素晴らしい環境で学びたいと強く思いました。

日本に帰った次の日には、勉強がしたくてたまらなくなり、英検の申し込みをしました。毎日少しずつ勉強しています。この経験を無駄にせず、夢に向かって努力し続けます。



#### 進路選択の幅広さ

岡山東商業高等学校 3年 児玉舞雪

私が最も感動したのはオーストラリアの教育システムです。大学を卒業して社会人になった人が職業訓練校に戻ってこれたり訓練校から大学に入ったりと、とにかく進路選択の幅広さに驚かされました。そしてオーストラリアは留学生をたくさん受け入れており、留学生のための制度も整備されていることにも驚かされました。国全体が教育に力を入れていて日本とは全く違うと思いました。

私はこのプログラムに参加して、改めてグローバル化を推進するなら、自分の目で見て肌で感じるのが重要だと思いました。異国の人々と交流することで日本の文化を改めて知ることができるし、自分を高めることができると思います。また、日本の文化を世界に伝え、世界中の人が日本の文化に理解をしめし興味を持ってもらえるようにしたいと思います。世界中の国々がお互いを理解すれば、紛争もなくなり、平和な世界を築くことができるのではないのでしょうか。いつの日か外国で働き、日本と外国との架け橋になるような仕事をしたいと思います。

#### 自分の意思を伝える力

津山商業高等学校 3年 平松詩絵里

TAFEを見学して実際に英語の授業に参加しましたが、オーストラリアの授業は、日本のように先生の話聞くばかりではなく、コミュニケーションを重視したスタイルで、グループやペアで話し合いと発言することが多く、自分の意思を伝える力が必要だとわかりました。私は教科の中では英語が好きなのですが、実際に外国に行くとなかなか通用しないのではないかと心配でした。しかしTAFEの先生方は生徒との距離も近く、生徒のことをよく考えていて、もし不安や悩みができて、気軽に相談しやすい環境だと感じました。さらにTAFEの施設についてですが、私の想像をはるかに超える大規模な敷地で、さまざまなコースがありました。どのコースも本格的で設備も充実していて驚きと感動の連続でした。見学するたびにになりたい職業が増えるような気がしました。自分の好きなことを勉強している生徒さんはとても伸び伸びとしているのですが、ちゃんと自分の目標に向かって努力していて、輝いていました。

私はこのプレ留学に参加してオーストラリアの大自然や文化に触れ色々な発見をしましたが、私の暮らしている日本の文化や環境の素晴らしさにも気が付きました。もし機会があれば私の高校の後輩にも、体験するためになったこと、感じたことを伝えたいです。



#### 一歩を踏み出す勇氣

笠岡高等学校 2年 山崎智陽

TAFEを視察した時は驚きの連続でした。充実した施設で非常に専門的なことを学ぶことができ、その素晴らしさに圧倒されました。今回通訳をしてくださった方たちもTAFEで通訳を学んでいたと聞き、TAFEで学ぶ実践的なことは将来自分のやりたいと思うことに大きく役立つのだと実感しました。TAFEの学生の自分の夢を信じ、頑張っている姿は非常に印象に残りました。私もこんな風にまっすぐに夢や目標に向かっていきたいと強く思いました。

今回のオーストラリアプレ体験留学は私に一歩踏み出す勇氣を与えてくれました。留学はずっと暮らしてきた日本を離れ、知らない土地に1人で行くという大変勇氣のいることだと思います。私は留学のことを考えるといつも、自分にそんなことができるのかなとか、ホームシックにならないかなとか、マイナスなことばかり考えていました。でも今回オーストラリアに行ったことを機に、考え方が大きく変わりました。確かに、留学に対する不安が全くなかったとは言えませんが、それ以上に挑戦してみたいという思いがとても強くなりました。たった1週間だけれど、ひとまわり成長できた気がします。

※プレ体験留学参加者の体験記を集めた報告書ができあがりました。ご希望の方は、財団事務局までお問い合わせください。



財団では、岡山県の文化の向上に貢献した方々の功績を顕彰し、福武文化賞・同奨励賞をお贈りしています。第13回となる今年度の受賞者は次のとおりです。

## 福武文化賞



劇作家・演出家

### 坂手 洋二

社会性・実験性の高さと豊かな表現力を兼ね備えた舞台作品を作り続ける日本を代表する戯曲家・演出家。世界で活躍しながら、同時に岡山県の文化芸術の発展向上、普及及び担い手の育成のために尽力され、その創造性と行動力は各方面から賞讃されています。



詩人

### なんば・みちこ

岡山県と中央詩壇との交流の活発化をはじめ、後継者育成やジャンルを超えた各種文化企画・事業への参画を積極的に行い、文化関係者のみならず教育関係者からも高い評価と大きな信頼を得、長きにわたり岡山県の文化向上に貢献されています。

## 福武文化奨励賞



漆芸家 塩津 容子

「描菊髹(かききんま)」という技法に、日本でただ一人取り組む漆芸家。岡山県が世界に誇る備中漆の復興・普及、後継者の育成にも積極的に取り組み、地域文化への貢献は顕著で、衰退が懸念されている伝統工芸において、今後更なる活躍が期待されています。



フルート奏者 三尾 奈緒子

5年間のヨーロッパ留学後、地元岡山県に戻り演奏活動を精力的に展開。その場の空気を受け止め、自身が持つ表現の中から最良の表現を選び取る……その場でしか味わえないサイトスペシフィックな演奏空間の創出に優れた才能を発揮されています。



編集・出版 山川 隆之

地域に根ざした旺盛な出版活動と地域を掘り起こす本づくりは、全国的にも希少な存在として注目を集め、執筆者と向き合う真摯な編集姿勢は高く評価されています。編集・出版という分野での地域振興はユニークでかつ多様性があり、今後更なる活躍が期待されています。



映画制作・上映 cine/maniwa

真庭から発信する「その土地と人の営みを見つめる」地産地生映画は国内外から高く評価され、地域振興に映画という手法を用いたことは新しい試みであり、制作や上映を通して文化的なネットワークを構築した活動もユニークであると評価されています。

## 北川フラム氏講演会

### Setouchi Triennale —瀬戸内海を希望の海に—

福武教育文化振興財団では、10月21日、瀬戸内国際芸術祭2013に向け、同総合ディレクター北川フラム氏を講師に迎え「Setouchi Triennale —瀬戸内海を希望の海に—」講演会を開催致しました。

北川フラム氏は、瀬戸内の季節を感じてもらえるよう春・夏・秋の分散開催とすることや新しく中西讃の5つの島が参加すること、本州側の玄関口となる宇野港周辺のプロジェクなどについて触れながら、前回の成果と課題、今回の趣旨や企画内容、新たな取り組み、またアートと島民、島民と来島者を繋ぐ役割を担うこえび隊の活動の大切さについてお話しされました。

参加者からは「2010年の芸術祭はとても楽しく、来年はさらにたくさんの作品が見られることを知り、こえび隊に参加したくなった。」「芸術祭が地域の活性化を目的としている点に興味を持った。芸術祭のサポートはもちろん、日常的な島の方々と交流もしてみたい。」などの感想をいただきました。

瀬戸内国際芸術祭につきましては公式HPをご覧ください。

<http://setouchi-artfest.jp/>



## 「島へ行こう。」こえび隊募集中!

「こえび隊」は瀬戸内国際芸術祭を支えるサポーターたちの名前です。あなたも、船で島に渡り、美しい海を目前に、アートに触れてみませんか? 島の人々やアーティスト達と一緒に、みんなで元気に楽しく芸術祭をつくりましょう!

こえび隊の活動は、

◎空家掃除 ◎作品素材集め ◎アーティストの作品制作のお手伝い ◎作品受付 ◎島や作品の案内 ◎島行事のお手伝い ◎イベントのお手伝い ◎広報活動 ◎こえび新聞発行 ◎ガイド ◎通訳 ◎作品撤去 など、芸術祭に関わることのお手伝いをします!

参加資格は、島が好き!アートが好き!芸術祭を手伝いたい!と思っている方なら全員です!年齢制限はありません! 子どもからおじいちゃんおばあちゃんまで自分に合った活動ができます。1日から参加可能です。

登録・詳しい活動内容はこえびサイトへ。 <http://www.koebi.jp/>



お問い合わせ先

特定非営利活動法人瀬戸内こえびネットワーク

〒760-0019 高松市サンポート1番1号

高松港旅客ターミナルビル

TEL : 087-813-1741 FAX : 087-813-1742

E-mail : [info@koebi.jp](mailto:info@koebi.jp)



今回の犬島海の劇場は、瀬戸内の島々が一望できる犬島南西部の入り江が舞台となった。普段ここは人が訪れることはほとんどなく、石切り場に隣接した波の音と虫の音しか聞こえない静かな場所である。近年では、この場所から石が切り出され、日本各地へ運ばれている。

坂手氏によるこの作品は、放射能や海洋汚染、戦争などを題材とし、科学、産業、経済が発展していく中で失われたものを“クジラ”を通してコミカルに表現していた。犬島の精錬所や犬石様の歴史にも触れながら、時空の旅人が時を超えて、過去へ未来へと観客を導いていく……。

かつて菅原道真公が嵐の中、犬の遠吠えに導かれ、この島へ命からがら辿り着いた時と同じように、“最後のクジラ”は何かに導かれて島へやってきた。クジラはこの島が汚れない安全な場所であるということを知っていたのかもしれない。

二本足の生き物は豊かさを求めた故、得た技術やシステムが複雑になり過ぎ、いつの間にかそれが自らを脅かす存在になってしまった。それを自然の摂理とし、そのまま受け止めるという考え方もあるかも知れないが、私たちはそのリスクに立ち向かう為に、過去や未来を見つめながら、もう一度「今」を考える必要があるのではないかと改めて考えさせられるものであった。

偶然ではあるが、私はこの演劇の行われる5カ月前、この海岸にスナメリの子どもが打ち上げられているのを目撃している。この“スナメリ”も同じように何かに導かれ、ここにやって来たのだろうか。まるで、この「内海のクジラ」という物語ができることを知っていたかのように。

私が初めて犬島に来たのが13年前。その時、犬の遠吠えに導かれたかどうかは定かではない。

あおちだいすけ／写真家、ブルーワークス PHOTO & DESIGN Office 代表、犬島時間実行委員会代表。1973年岡山市生まれ。写真及びデザイン業を営むとともに2004年よりアートを通じ、コミュニケーションを図ることを目的としたプロジェクト「犬島時間」を企画主催。人材の育成と発掘・地域づくりに取り組む。

## Editor's Comments

▼岡山の秋は文化があふれていました。「岡山芸術回廊」「おかやま県民文化祭地域フェスティバル」「岡山県天神山文化プラザ開館50周年記念事業」「岡山市音楽祭」「岡山市芸術祭」「美作国建国1300年記念プレ事業」などなど。その中で何を観に行くのか、聴きに行くのかを選択。この秋は自分が本当に好きなもの、興味あるものがみえてきました。

▼12月1日から平成25年度の教育研究助成・文化活動助成の募集が始まります。〆切は1月31日(当日消印有効)。財団では地域振興につながる公益性の高い教育・文化活動を募集しています。詳細は財団HP又は募集のチラシ(図書館・公民館等に配布)をご覧ください。

▼瀬戸内国際芸術祭2013の作品鑑賞パスポート引換券の先行発売が始まっています。特に「春」「夏」「秋」の会期中利用できる3シーズンパスポートは、とてもお得なおすすめです！(1シーズンパスポート：《春》3,500円、《夏》4,000円、《秋》4,000円、3シーズンパスポート：5,000円。1作品1回限り会期中有効。3シーズンパスポート引換券販売期間：2012年10月26日～2013年4月21日)詳しくは、瀬戸内国際芸術祭チケットセンター(087-811-7921)へお問い合わせください。(財団・W)

季刊

不易

F U E K I vol.48 2012.11.25

編集・発行：

公益財団法人 福武教育文化振興財団

〒700-0807 岡山市北区南方3-7-17  
株式会社ベネッセコーポレーション本社3FTEL 086-221-5254 FAX 086-232-3190  
URL <http://www.fukutake.or.jp/>  
E-mail [eczaidan@fukutake.or.jp](mailto:eczaidan@fukutake.or.jp)制作：  
株式会社 吉備人  
デザイン：  
田中雄一郎(QUA DESIGN style)  
印刷：  
広和印刷株式会社